

McMaster 大学留学報告書

工学部システム創成学科 C コース 4 年

1. 留学準備期

事前に McMaster 大学の学内サイトでシラバスを確認し、学習計画を立てました。

留学の目的は、異文化に触れて視野を広げることに加え、工学的知識を活かして起業を通じた課題解決に必要なスキルを身につけることにありました。

1 学期目では主に技術系の授業を履修し、2 学期目ではよりビジネス寄りの授業を申請しました。

また、スムーズに多くの人と交流し学べるよう、スピーキングとリスニングを中心に英語対策を行いました。TOEFL や IELTS を受験することで、留学前の英語力向上の指標としていました。

2. 留学期

1 学期目に履修した科目は、

- *Applied Artificial Intelligence*
- *Human-Computer Interfaces*
- *Software Requirements & Security Considerations*
- *Fundamentals of Marketing* の 4 つ、

2 学期目は、

- *Negotiations*
- *Persuasion, Pitching Skills and Marketing*
- *Financial Markets & Derivatives* の 3 つでした。

AI の授業では、さまざまな AI モデルについて学ぶとともに、実際にライブラリを使用したコーディングも行いました。グループワークによるプロジェクトもあり、具体的な実装まで経験することができました。

開発系の授業では、ソフトウェア開発におけるコーディング以外の重要なスキルについて学びました。アイディエーションやデザインに加え、実際のプロジェクトをチームで遂行するためのスキルを、ハンズオン形式のグループプロジェクトを通じて効率的に習得できました。

一方でビジネス系の授業では、マーケティングの手法や戦略に加え、企業分析、ピッチスキル、交渉術など、実践的なスキルを学びました。これらもプロジェクトベースの学習が中心で、グループワークが多く、リーダーシップをとりながら他の学生と協働することも同時に学びました。

2 学期を通じて、工学的な知識を深めると同時に、それを社会に実装するためのビジネススキルも実践的に学ぶことができました。

3. 留学終了期

留学の後半には、時間的・精神的な余裕が生まれたことで、設定していた目標をより実のある形で達成するために、授業で学んだことを実践に応用することを決めました。

まずは、現地で興味のある分野の関係者に対して、課題のヒアリングを多数行いました。現地での取り組みは具体的な結論には至らなかったものの、その後オンラインで、ある日本企業の課題解決のためのシステム開発プロジェクトを実施することになりました。

McMaster 大学で授業を担当してくださった教授方にも相談に乗っていただきながら、プロジェクトを進めてきました。現在も、留学中に培った経験と知識を活かしながら、引き続きプロジェクトに取り組んでいます。

今回は日本でのプロジェクトとなりましたが、留学によって英語力が向上し、多様な文化への理解が深まったことで、他地域への心理的な距離感が縮まり、自分が関われる人や場所の範囲が大きく広がったと実感しています。

今後は、より広い視野を持って学びを実社会に活かしていけるよう、引き続き勉強と実践を重ねていきたいと考えています。

後輩へのアドバイス

1. 準備期

英語の準備は非常に重要です。特にリスニングとスピーキングに関しては、英語試験（TOEFL や IELTS など）の教材だけでは、実際の現地での会話レベルには十分対応できませんでした。

TED や Podcast などよく勧められますが、できるだけドラマや YouTube などを使って、リアルな表現やスピードに慣れておくことをおすすめします。

また、ビザの申請や保険の加入、住居の確保など、さまざまな手続きが必要になります。これらは想像以上に時間がかかる場合があるため、できるだけ早めに、余裕を持って準備を進めることを強くおすすめします。

私の場合、留学期間が直前になって半年に短縮されたことがありましたが、元の 1 年に戻したいと強く申し出た結果、最終的に 1 年間の留学が認められました。他の留学生はそのまま半年で帰国してしまっていたので、もし問題があれば、すぐに相談することが本当に大切だと感じました。

2. 現地

人との交流について

現地の友人と仲良くなる際、話すスピードが遅かったり、うまく英語で伝えられなかったりしても、大きな問題にはなりません。ただし、相手の話している内容が聞き取れない場合は、交流に支障が出ることもあるため、リスニング力はできるだけ高めておく方が良いと思います。

とはいえ、もっとも重要なのは、自分の英語レベルを気にしすぎず、積極的にさまざまな人と関わることです。行動力さえあれば自然と友人の輪は広がっていくので、あまり心配せずに自分から話しかけていく姿勢が大切だと感じました。

また、人に相談することも非常に重要です。たとえ深刻な問題でなくても、不安や気になることがあれば、友人や先生、学校のサポーターに話してみることで、さまざまな解決策が見つかることがあります。特に現地で必要な情報を自分ひとりで探すのは難易度が高いことも多く、欲しい情報があるときは、周囲の人に聞くのが一番早く、確実な方法になる場合が多々ありました。

McMaster 大学で出会った方々はとても協力的で、何度も助けていただきました。困ったときは一人で抱え込まず、積極的に周囲を頼ることをおすすめします。

授業について

授業や課題に追われるあまり、人との交流が疎かになるのはもったいないと考え、最大 6 科目まで履修可能なところを、1 学期目は 4 科目、2 学期目は 3 科目（+1 つのプログラム）にとどめました。

McMaster 大学の授業や宿題は極端に重いわけではありませんが、ほぼ毎回の授業で何らかの課題が出されるため、多くの授業を履修している学生は、毎日複数のタスクを抱えることになり、とても大変そうでした。

試験は、しっかりと対策をしていればそれほど難しくないので、自分が興味を持てる科目を選ぶのが良いと思います。

また、日本以上にプログラム（学科）ごとの目的や方針が明確に分かれており、理論重視というよりは、ハンズオンやプロジェクトベースで実践的なスキルの習得を重視する授業が多かったのが印象的でした。グループワークも多く、英語でのコミュニケーション力を伸ばすには非常に良い環境だと感じました。

現地での生活について

カナダは夏の間は過ごしやすい一方で、冬は非常に寒く、乾燥しているため風邪をひきやすい環境でした。体調を崩すと、その期間の予定がすべて無駄になってしまい、精神的にも大きなダメージを受けるため、体調管理には日本以上に注意が必要です。図書館や教室など、屋内も必ずしも暖かいとは限らないため、防寒対策はしっかりとしておくことをおすすめ

します。

カナダの学生向けシェアハウスの多くでは、学生同士の交流があまりなく、トラブルが起きたときに一人で抱え込んでしまうことがあります。実際に生活してみて感じたのは、問題があった際には遠慮せず、はっきりと自分の要求を伝えることが大切だということです。直接的なコミュニケーションを取らない限り、ストレスが蓄積されていくばかりなので、勇気を出して伝える姿勢が重要です。

また、多くの学生は学校周辺に住んでおり、キャンパスの近くに住むことで友人と気軽に会える機会が増え、交流しやすくなります。その点でも、住まいの立地は重要だと感じました。住居は、Facebook グループ、大学のルームメイトマッチングサイト、学校推奨の不動産サイトなどで探しました。ただし、Facebook には詐欺（スキーム）が多いため、私は利用を控えました。家賃の安さだけでなく、大学キャンパスやダウンタウンへのアクセスの良さも非常に重要な要素です。結果的に、友人と会う機会が増え、生活の充実度にもつながります。住居探しはビザの取得と同様に、できるだけ早めに動くことを強くおすすめします。

その他

留学で 1 学年落とすことを躊躇する方も多いと思いますが、留学中は自分を見つめ直す時間も多く、個人的には 1 年間のギャップイヤーとしてとても有意義だったと感じます。カナダでも多くの人が何かしらの形で 1 年の休学をしており、必ずしも留学という形でなくとも、1 年卒業を遅らせることはメリットの方が大きいと感じました。もしこの点が気になる方は気にせずに飛び込んでみて良いと思います。